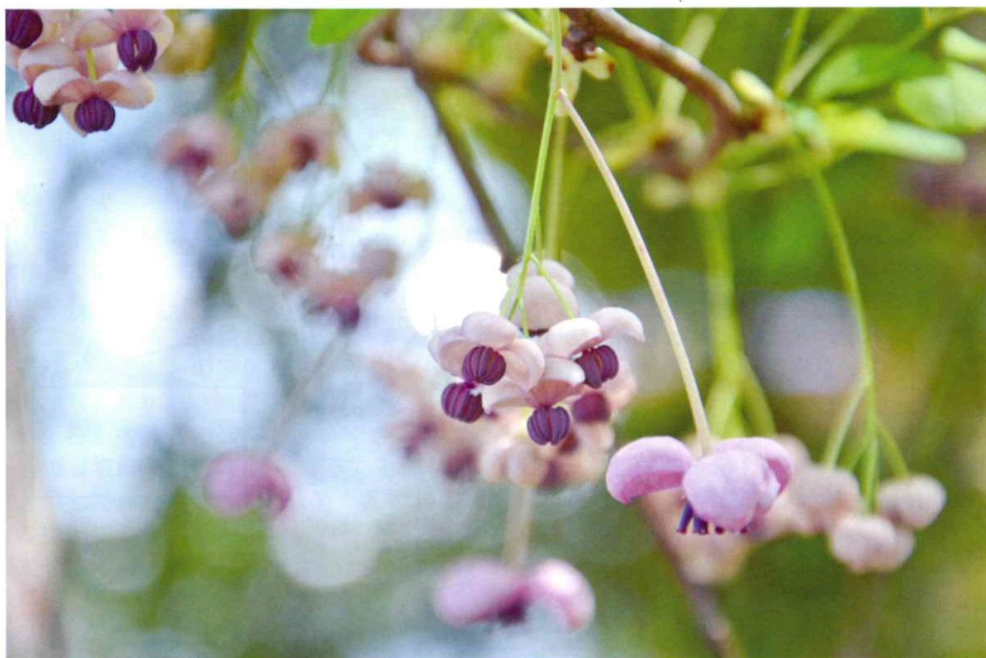


 <b>コンビニハウス</b> 	編集/コンビニの会事務局 連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431 TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)
	障害をもつ人たちの地域生活を支援する 特定非営利活動法人 <b>コンビニの会</b> 定価/150円 昭和54年8月1日第三種郵便物認可
<hr/> <b>第126号</b> <hr/>	



アケビの花

### 花だより・アケビ

自然写真家 河嶋 秀直

春の里山に見慣れない花を見つけた。  
薄紫の花弁に濃い紫の花芯の小さな花が蔓から伸びている。

見たことがあるような懐かしさもあったが、名前が出てこない。

家に戻って調べてみると、その花の名前が、「アケビ(木通、通草)」だと分かった。

子どもの頃、里山の傍に住んでいて、アケビの実を家族で取りに行った事を思い出した。

この花を見た時の懐かしさは、心の奥に大切にしている家族との思い出があったからかもしれない。

そういう思い出たちを彩るものは、食べ物であったり、物であったり、景色であったりしますが、いつの時も輝いて見える。

子どもの頃に食べたアケビの果実は、甘く美味しかったような気がするが、もう何十年も口にしていない。

果たして、子どもの頃の記憶は確かなんだろうか…

(次頁へ)

最近、スーパーに並んでいることもあるので、次に見ついたら食べてみよう。

今は、昔のように自然からの恵みを口にすること少なくなりました。

木苺や柘榴、土筆、野蒜（のびる）、ヨモギなどを季節になると取りに行くのが楽しかった。

陽の当たる土手に行き、袋一杯に土筆を摘んだ事もある。

土筆の甘草煮やヨモギで草餅を母が作ってくれた事を今でも思い出す。

生活の中に小さくても自然があると、心が安らぎ、潤うような気がするので、季節の鉢植えを、見える処に置くようにしている。

もうすぐ紫陽花の咲く季節、雨でも紫陽花の花を見ると爽やかな風を感じる……



土筆の寄せ植え

### 雑記 ごまめの歯ざしり

#### 上木食堂

昨年11月にもともと旅館だった古民家を改装して食堂をオープンした。その一年前に古い民家を取り壊すのだけど、とても趣のある建物だから何かお店ができないかと解体を請け負った材木店の友人に声をかけられた。場所は僕の家からほど近く、かつての地元の繁華街で、今はほとんどのお店が閉める地域。

『食卓を揃える』をテーマに農業に取り組む僕は、いつかこの地域で僕や地元の人材を使ったお店をしたいと思っていた。田舎過ぎて、飲みに行ったり友だちとお茶するところもあまりなく、仲間が集まるようなお店が欲しいなと思っていた。

そんな気持ちはあったが、急にお声がかかったものだから、畑仕事で忙しい僕がお店なんてと思いながら解体前の建物を見に行ったが最後。

はじめのうちこそ、自分はやらないし、そもそもやれないから、と思い込ませていたが、もともと旅館だった建物だけあって、キーンとした水屋とイカした小上がりのある玄関。それを見ているとついついワクワクと妄想が膨らみ、やりたい気持ちになってしまった。気持ちがそうなってしまった以上、あとは具体的にどのような形ならできると日々考えながら、また建物を覗きに行きながら、ふと思いつき、名古屋のカフェで働いている友人を誘った。

「お店やりたいと思うけどどう？」の問いに二つ返事で「やります！」あまりにも僕には軽い返事に聞こえて逆にこいつで大丈夫かという考えが生まれました。でもどうやら彼も本気だったようで、いろいろと問答繰り返しながらオープンに至り、今はとてもいい相方になっている。

僕は野菜、彼は料理。そしてこの田舎に1人住民が増えた。それだけじゃなく、お店には昼間から焼酎ボトルを抱えながら話し込むおじちゃん達の横で女子会が開かれている。かつて人の往來の拠点になっていたこの街が、この建物が、にわか息を吹き返してきた。

(会報委員 寺園 風)



## 夢に向かって

エゼル福祉会 理事長  
大川 美知子



### ● 報告 ●

一月号の会報で「新たな拠点を作る為の土地を探している」と書かせて頂きました。去る二月初旬に名古屋市有地売り払い物件の一般競争入札に参加して、土地を落札し購入することができましたのでご報告させていただきます。

● 今までの通りの場所・・・が、難しく●  
土地探しが始まったきっかけは、現在エゼル福祉会の本部とショートステイ事業に使われている西区中小田井の建物が老朽化して雨漏りが年々ひどくなり、建て替え以外に逃れる方法が無いと言う結論に達したから

でした。

私たちエゼル福祉会が重度障害者の家族の介護負担を軽減することを目的に活動を始めてから僅か二〇年しか経っていません。福祉事業に取り組む団体としてはまだまだ駆け出し・・・と言う年数です。それ故に拠点の寿命について深く考えたことも無かったのですが、日々の活動拠点となっている場所（建物）を建て直すとなると障害のある方の生活にまで影響が及んでしまいます。建て替える間、ショートステイを中止するか・・・などと考え始めると「いや、それは無理でしょう」と言うことになり、今までの通りの場所に今までの通りの状態で居続けられないと言う現実を受け入れて土地探しが始まりました。



### ● こんな土地が欲しい・・・入札へ ●

西区小田井地域で法人本部の機能と通所施設、ショートステイ施設の他にグループホームが建設できるような三五〇坪くらいの土地を探し始めたのですが、中々見つかりませんでした。

学生のヘルパーが授業の帰りに寄れるように地下鉄の駅から徒歩十五分圏内・・・と言うのも条件の一つでした。土地を探し始めたのは去年の春のことでしたが探し始めて半年も経たない内に、値段も含めて自分達が出した条件がかなり難しいことを思い知りました。

今年の一月にWILLの職員から名古屋市が入札者を募集している土地があると言う情報が寄せられ、広さを尋ねますと二百七十坪とのことでした。

評議員や理事の皆さんに相談した結果、一年間探しても売地にめぐり会わなかったのだから入札に参加して買ったほうが良いのではないかとの判断でした。

一体どのくらいの金額を入札すれば良い

のか皆目見当つきませんでした。比較的年齢の高い人が集まっている事務職員（経験豊富だから）と、法人の役員に相談して入札額を決め入札に参加しました。

落札したのは私たちエゼル福祉会でしたが、入札に参加したのは五つの団体で、私たち以外は全て建売住宅の販売会社のようにした。

● 予定通りには行かないけれど ●

土地を探した一年間に私たちの中にも色々な変化が生まれました。最初に予定していた広い土地を確保するのは殆ど不可能になり、候補に挙がった土地は二七〇坪ほどで予定よりは小さい物でした。当初の計画に入っていたグループホームの建設が難しくなり、場合に依っては土地の入札に参加するの可否かを左右する分かれ道だったと思います。入札参加を決定する評議員会で、親の代表である評議員さんから「暮らす場所と日中活動の拠点は離れた場所にあるべきでは無いか・・・それが地域社会で暮らして行く障

害者の自然な姿では」と言う発言がありました。

同一の敷地で二十四時間の支援が提供できることは事業所（支援する側）に取って都合の良さであり、障害のある人達が望む暮らしなのだろうか・・・？と問われて、「本人の気持ち、親の気持ち」に寄り添う施設作りを考えさせられました。当初は現在の法人本部を売却して新たな土地を購入する計画でしたが、先には暮らしの場を作る必要があるとして中小小田井公園前の土地は、出来ればこのまま所有することが望ましいと言うことになりました。

● 設計図面 ●

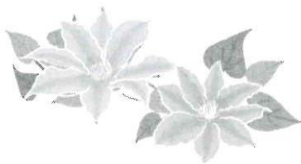
先日、初回の設計図面が出来て来ました。これから職員や親御さんの意見を伺いながら、修正を加えて行くことになりませんが、設計事務所の説明を聞いて、夢が膨らむ嬉しさとは裏腹に建設費用の凄さのため息が出てしまいました。

何の蓄えも無い中で中小小田井の拠点を

買った時の大変さを思い出しましたが、制度さえ無い、何の見通しも無かったコンビニハウスを後押ししたのは「重い障害のある人達を支えることは自分達コンビニハウスの役目なのだ」と言う確信に満ちた思いでした。初心に立ち返って、理念とする「利用者主体の支援」を追い求めて歩を進めたいと思います。

求めよ、さらば与えられん。  
尋ねよ、さらば見出さん。  
門を叩け、さらば開かれん。

私が信じている聖書の言葉（マタイの福音書7章17節）です。



## 市江由紀子さんの

### 支援に関わって

「医療的ケアが必要な人への支援」

生活支援部 溝口 愛

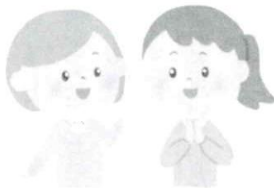
昨年の9月に通所部から生活支援部へ異動となり、それと同時に市江由紀子さんの支援に関わらせて頂くことになりました。市江さんは気管切開をしていて、経口摂取が困難なため必要カロリーは腸瘻と点滴から摂取しています。ヘルパーとして入るためには痰の吸引と経管栄養を行うための資格の取得も必要になります。ウイルの利用者の方で日常的に医療的ケアが必要な方はいなかったのですが、医療的ケアに携わるのは初めての経験でした。

### 一番大切なこと

市江さんのお宅では、日常的に医療的な専門用語が飛び交っています。そのため、私の頭の中は「？」だらけで半分バニックのような状態でした。気管切開をしているので、首や身体を変な風に触ってはいけないというプレッシャーで動きが固くなり、介助もうまくできない…。市江さんやヘルパーさんたちと思うように話もできない…。初めの3カ月くらいはわからないこととできないことばかりで、うまくいかない自分に情けなくつらい気持ちでした。「何でもっと自然に市江さんたちの中に入っていけないんだろう…」と悩みました。でも、「他のヘルパーさんたちと同じようにいかなくて当たり前。私は私なりに市江さんと私の関係をつくっていきたい。」そんな思いで通い続けました。市江さんも不満や不安な気持ちがあったと思いますが、それでも何度も介助の練習をさせてくだ

さいました。通い続けるうちに市江さんやヘルパーさんたちと一緒にいる空間が楽しくなってきた、少しずつ介助の感覚もわかるようになってきました。

痰吸引、経管栄養、呼吸器の装着等市江さんだからこそ必要な特別な支援はたくさんあります。健康状態、服薬内容も頻繁に変わります。一歩間違えれば命に関わる、そんな責任の重さも感じます。エゼルが関わっている他の利用者の方と比べるとやはり「難しい人」です。しかし、市江さんと関わり感じたことは、どんな場合でも人と人との関係づくりが根幹にあるということでした。いくら痰吸引の研修を修了しても、知識と技術だけでは支援はできません。相手を知らうとする気持ち、自分のことを相手に知ってもらうこと、おうとする気持ち、それが一番大切なのだと思います。そし



てそれは、介助を介して相手にも伝わるものです。そんな当たり前のことを改めて実感した数カ月間でした。まだまだ知識や技術等至らないことだらけで、常に緊張感があります。が、当初感じていた緊張感とは違うものに変わってきています。

### 命を預かる瞬間

市江さんのお宅に通うようになり間もな  
くの頃のことです。市江さんがショートステ  
イ中に発熱し、急遽主治医のいる病院へ転院  
することになりました。以前点滴ルートから  
の感染が原因で高熱を出したことがあった  
ので、また同じことになったのではないかと

いう不安が病室に広がっていました。血液検  
査や尿検査等の合間に転院するための人や  
車の手配等連絡調整を行い、荷造りを進める。  
寒さや熱さはないか？少しでも楽な体位  
は？と色々試してみる。解熱剤や抗生剤は何  
を使用するのがいいか？などの確認をする

…。じつとしていることなど一瞬もなく目ま  
ぐるしい早さで色々なことを確認し合い進  
めていくヘルパーさんたちの姿にただただ  
圧倒されたのを覚えています。市江さんに  
とっては発熱ということが命に直結する本  
当に大変な事態なのだということを肌で感  
じました。また、ヘルパーさんたちを信頼し  
命を託している市江さん、それを受け取り懸  
念に支援しているヘルパーさんたち、その双  
方の姿に言葉では簡単に表すことのできな  
いものを感じました。毎日の生活の中で必  
要な介助だけではなく、正に命と向き合い  
守っているんだということを感じました。

### 「じわからの課題を把握して」

エゼルでは利用者の高齢化、障害の重度化  
がここ数年大きな課題となっています。いず  
れは気管切開、痰の吸引、胃瘻・腸瘻からの  
経管栄養など必要になる人も出てくるでし  
ょう。このような事態になったときに自分た

ちはそれに応えていくことができるのだろ  
うか？知識や経験がなく知らないことで医  
療的ケアが必要な人を受け入れることがで  
きず、施設入所や在宅生活にさせてしまふ…。  
そんなことにはさせたくありません。そう  
いった意味でもエゼルとして市江さんの支  
援に関わるようになったことは必然的なこ  
とだったのではないかと思っています。生活  
を共につくり命を守っていく姿勢や責任、医  
療との関わりなど学ぶべきことがたくさん  
詰まっています。市江さんやヘルパーステ  
ーション舞夢のヘルパーさんたちからたくさ  
んのことを吸収し、エゼルの他の利用者さん  
の支援へと選じていきたいと思っています。



## 社会福祉法人制度改革について

エゼル福祉会 評議員

宮川 優子

2017年4月より社会福祉法人法の改正に伴い、エゼル福祉会は新しい理事会、評議員会を組織してスタートしました。

今回の法改正は制度の改革と福祉人材確保の促進が2つの大きな柱です。事業運営の透明性を高めるための様々な改革が求められました。

その背景には社会福祉法人が関係する不正な事件があります。たとえば稀なケースで

あっても発覚した時に社会から投げかけられる厳しい批判に社会福祉法人全体がさら

されます。特に「どうせ、実際に働いていな

い家族に給料を払ったり、世襲で役員を決め

ているのでしょ」「儲からないサービスはや

らないのでしょ」などの誤解は解いていかね

ばなりません。社会福祉法人には公的な役割

があるために、本来は市場メカニズムとは関

係なく地域に必要な福祉サービスの提供者

である責任があるのです。

確かに社会福祉法人は民間業者とは違い

種々の税金が免除され、いろいろな優遇策が

あるのは事実です。ですから納税者が福祉政

策の必要性を理解して気持ちよく納税でき

るように財務などの情報開示をするのは当

たり前のことです。

公正な運営が続いている当法人にとって

は、年度末に新しい役員を選出や定款の変更

など仕事の負担が増えたこと以外に大きな

変更はありません。引き続き、透明性の高い

運営に努めます。会報読者のみなさまにおか

れましてはホームページで詳細をご確認ください。

ください。

活動が始まった頃には「とりあえず必要な

からやってみよう！」で決めていましたが、

事業規模は年々大きくなり、正規職員の数は

増え、社会的な責任の重みが増すばかりです。

新しい施設のオープンに向けて、熱い思いは

持ちつつも冷静な経営判断が必要となりそ

うです。

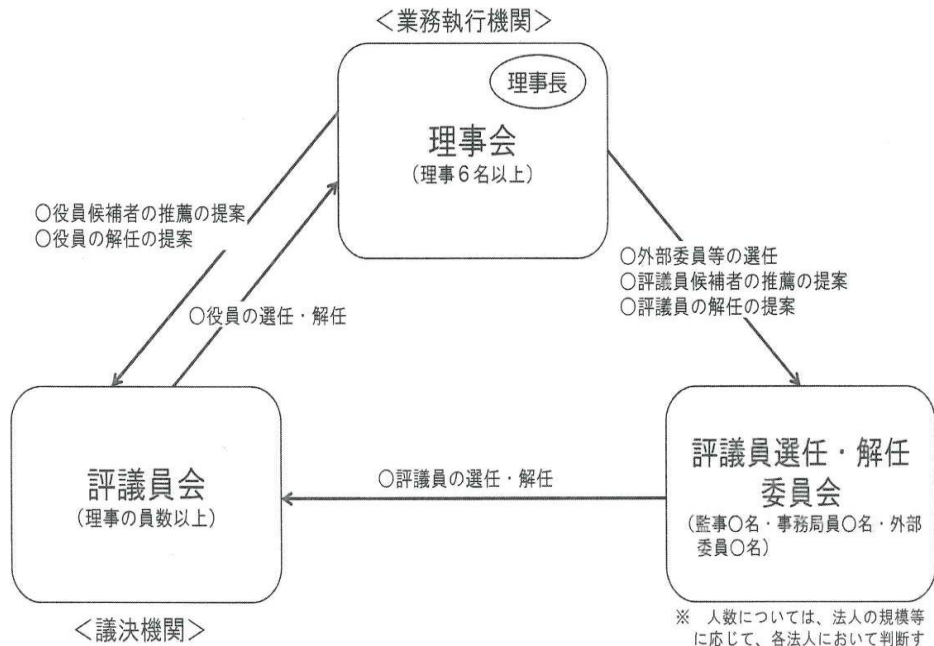


エゼル福祉会 理事・評議員 (敬称略)

理事 (6名)	大川美知子 神谷佳広 市岡幸隆 寺澤慶英 溝口愛 榊原芳典
監事 (2名)	松原伸二 大嶋千波
評議員 (8名)	小椋勤也 内田恭史 宮川優子 大島伊久代 増田修 佐々木正和 村田昌史 堀江良子

幸い経営組織である理事会、評議員のメンバーは、様々な立場から発言し討議できるメンバーで構成されています。また、毎回の会議では障害者の生活がより良いものになるような議論がされています。今後も引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

(参考) 評議員会、理事会、評議員選任・解任委員会の関係



※ 人数については、法人の規模等に応じて、各法人において判断する (外部委員を含む3名以上)。

厚生労働省ホームページ  
社会福祉法人制度改革の概要資料より抜粋

《活動状況》

3月

1日 西保健所訪問(コンビニハウス)

4日 ボランティアまつり(寺澤)

5日 ヘルパー学習会・送る会

5日 ジョギングウォーキング大会(佐藤)

7日 選任・解任委員会

7日 自立支援連絡協議会施設部会 (若林)

9日 管理職学習会 (大川・榊原)

16・21・23日  
エゼル福祉会主催重度訪問従業者養成研修

17日 自立支援連絡協議会居宅部会

21・28日 行動援護研修 (木村)

18日 理事会・評議員会

21日 会報発送

23日 名古屋市集団指導(榊原・溝口・水谷)

24日 名古屋市集団指導(寺澤・若林・岩崎)

30日 W I L L親の会・W I L L避難訓練

4月

4日 新入職員オリエンテーション  
(北島・山下)

4日 行動援護研修 (木村)

2日 ヘルパー学習会

5日 会報会議

6日 加藤設計打ち合わせ (大川)

8・15・22日 行動援護研修 (石原)

16日 同朋大学学内企業展 (榊原・大野)

16日 全障研愛知支部 発達保障セミナー  
(久野・北島・山下)

20日 暮らしの場交流会 (渥美)

25日 自立支援協議会相談支援部会(寺澤)

25.26日 衛生管理者対策講座 (久野)

27日 W I L L親の会

28日 改正社会福祉法説明会  
(大川・榊原・野村)



The illustration at the bottom shows a boy and three children playing with stuffed animals (elephant, bear, lion) on a stage. Above them is a banner with flags from the USA, Germany, and the UK. There are also decorative elements like a sun and stars.

事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

3月~4月(敬称略・順不同)



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

ココキカク キシサユミ

梶原敏明

コンドウタケヨシ

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

本田 真・塩澤しのか・林 勇輝

棚瀬さおり・桑原諸彰

(WILL)

渡辺武司・木下楓奈子・高田浩一

塩澤しのか・山崎正治

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

伊奈晶子 石原正寅 青木政治 加藤 結

辻本道子 桑原諸彰 黒田隆広 林 和子

高塚朱美 藤本菜見 堀 浩二 曾我直子

大瀧宥乃 楠村ゆき 加藤志歩 石原まち

田口陽介 加藤礼菜 奥村 修 坪内美紀

寺西 剛 土田京加 星野恭兵 三浦結梨恵

鷲見澄世 勝野観月 水谷友香

藤本由紀子 辻本沙利菜 山下紗也加

天野歩未乃 寺田みどり 茂手木利典

赤坂美登里 大脇美由紀 酒井まみ子

(WILL)

武部 文 須田たみ子

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子

吉田嘉子 高松陽子



## ◆◇ ある日の避難訓練の様子 ◇◇

毎年パルハウス（グループホーム）では夏と冬に避難訓練を開催して、いざという時に備えています。

避難訓練も今年で7年目になり、最初はエレベーターを使用しようとしていた利用者さんも、今では自分から非常階段を選んで避難しています。この様子を見て、今までの訓練の成果を感じました。

今回は火災を想定して行いました。火災では煙を吸わないように身を屈めたり、口を覆ったりする対応が求められます。

スタッフはしっかり対応できるよう、避難訓練を重ねてイメージする力をつけていきたいと思っています。

（生活支援部 宇都宮 正子）



※ 次号以降にエゼル福祉会の防災の取組について掲載する予定です ※

### 銀行口座

三菱東京UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

**コンビニハウス** Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail [convini@beach.ocn.ne.jp](mailto:convini@beach.ocn.ne.jp)

## コンビニの会

理事 宮川 優子